



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和7年6月26日

我孫子市小中一貫教育だより

第376号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

湖北中区 こほく・あらき ふれあい カリキュラム

新木小学校の3年生が社会の「はたらく人たちとわたしたちの暮らし」の単元のなかで、地域の農家を見学し、その体験をもとにまとめの新聞を作成する学習を実施しました。学習中、児童が見学中に書いたメモを振り返りながら、畑で育てていた野菜を想起し、農家の方の工夫や苦勞についてクラスでまとめました。

実際に農家で見たり聞いたり触れたりしたことを子どもたちは口々につぶやき、仲間同士で活発に話し合いを行いました。「何の野菜があったっけ。」「さといも！」「えだまめも！」農家の方に自分で取材してきた生の声をもとに、農家の方の野菜を育てる工夫や仕事の苦勞、さらには喜びを身近なものとして考えることができました。子どもたちの話し合いの様子から、農家見学を経験したことにより、子どもたちの農業に関する知識に深まりが生まれました。また、地域の力をかりて、農家とつながり、子どもの学習が充実している様子を垣間見ることができました。

地域の農家の方とのふれあいを通して、実りある学びとなっていた点が湖北中区オリジナルカリキュラム「こほく・あらき ふれあいカリキュラム」の実践になっていたと感じました。



我孫子中区 命でつなぐ我孫子カリキュラム

我孫子中学校の2年生保健体育「応急手当」の単元で、救命講習の授業が行われました。我孫子中学校区では、「安全」をテーマに小中一貫オリジナルカリキュラムを作成しており、その一環として今回の授業に取り組みました。講師として消防本部警防課の方を招き、実際に意識を失い、呼吸が止まってしまった傷病者に出くわした際、どのような対応が必要か実践的に学びます。

警防課の方から、我孫子市の救急搬送が、常時5台の救急車によって年間約8,000件あることや、救急車が到着するまでに約10分かかると、救急車が到着するまでの応急手当で救われる可能性が非常に高まることを教えていただき、実践が始まりました。

- ①車の往来などがないか安全確認、②呼びかけに応じるか反応の確認、③周囲に協力者を求める呼びかけ、④胸の動きから呼吸があるか確認、⑤脳に血液をおくための胸骨圧迫、⑥AEDによる電気ショック、⑦救急車到着まで胸骨圧迫の継続という順序を仲間と協力しながら取り組みました。



授業の最後に、「実際にこういう場に遭遇した時に、今日学んだことをいかして、一人でも多くの命を救いたい。」「実際にできるか不安はあるけれど、協力してくれる人を呼んだり、AEDを持ってきたり、自分にもできそうなことがあること知れてよかった。」と、真剣な表情で語る生徒たちが印象的でした。まさに、「命でつなぐ我孫子カリキュラム」の授業実践でした。